

かかりつけ医と病院を結ぶ

# 東北中央病院 病診連携室だより

平成26年 9月 No. 42

ホームページ <http://www.tohoku-ctr-hsp.com/>

◇ 理念 ◇ 「心温かい 信頼の医療」 病院長 田中 靖久



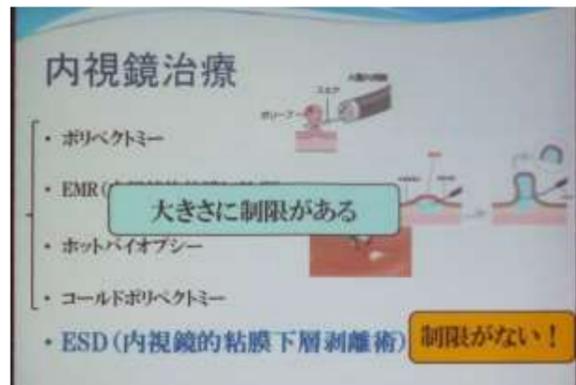
## 第7回 消化器疾患治療シンポジウム

9月11日(木) ホテルメトロポリタン山形に於いて、毎年恒例の消化器疾患治療の最先端を討議する会である『第7回消化器疾患治療シンポジウム』を開催しました。

御参集を賜りました先生方には、大変お忙しい中にもかかわらず、多数の御参加を頂き、厚く御礼申し上げます。

今回は、『最新の消化器癌診療について』をテーマとして発表を頂きました。

『大腸ESD本格導入2年を経過しての現状』  
山形大学医学部 内科学第2講座 助教 佐藤 剛司 先生



【演題Ⅰ】『大腸ESD本格導入2年を経過しての現状』  
山形大学医学部内科学第2講座 助教 佐藤 剛司 先生

消化管の内視鏡治療には、①ポリペクトミー②内視鏡的粘膜切除術(EMR)③ホットバイオプシー④コールドポリペクトミー⑤内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)があります。①～④までの治療法では大きさに制限があり、⑤の治療法では大きさに制限がなくまた一括して切除が可能な治療法です。しかしながら、大腸ESDは治療技術(手技)の難易度が高く、また大腸壁も薄いため胃ESDよりも穿孔(穴が開く)しやすいとも言われています。ESDが保険適用となった経緯を見ると、2006年に胃、2008年に食道、2012年に大腸と段階を踏んで適用となっており、難易度と治療技術の進歩が伺えるようです。

佐藤先生には、現代における消化器癌内視鏡治療の最先端を詳しくお話していただきました。



〔座長・司会〕

山形大学医学部内科学第2講座

教授 上野 義之 先生

東北中央病院 副院長 齋藤善広 医師

【演題Ⅱ】『当院における大腸ESDの現状』  
東北中央病院 消化器内科部長 石濱活義 医師

石濱医師より、当院における平成26年9月までに実施した症例数と一括切除率について発表していただきました。

- 1) 症例数398症例(全国でも上位クラス)
- 2) 一括切除率94.7%(全国平均82.8%)



【演題Ⅲ】『腹腔鏡下胃切除につて』  
仙台徳洲会病院 外科 鹿郷 昌之 先生

腹腔鏡下手術では大変御著名な鹿郷先生より、現代の手術法について大変詳しく発表していただきました。腹腔鏡下手術は約5mmから10mm程の穴を4～5箇所あけて手術する方法ですが、その手技は大変高度な技術を要します。患者さんには社会復帰が早い等の利点があり、鹿郷先生の最新技術を学ばせていただきました。



医療技術情報を共有し、今後も地域医療の発展ために役立てて頂ければと思います。該当症例がありましたら、是非当院をご利用頂けると幸いです。

職員一同、患者さんのために、良質・適切・安全な医療を提供できるように一丸となって治療にあたります。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



〒990-8510 山形市和合町3丁目2番5号  
公立学校共済組合 東北中央病院 病診連携室  
TEL(フリーダイヤル): 0120-703-995  
FAX(フリーダイヤル): 0120-168-990  
代表 電話: 023-623-5111